

リモートピアノ実技指導について

リモートの利点を活かした初心者へのピアノ実技指導の試み

三 上 ゆりか

時代の流れにより、様々な環境変化が起きている中、対面でしか考えられなかったピアノ実技指導にもリモートによる指導という新しい分野が生まれた。対面、リモートのどちらにも良い所がある。

対面でのレッスンでは音の響き、彩り、ハーモニーのバランス、フレーズの感じ方、ペダルの使い方、間のとり方、連弾などで、パートナーと心を揺らせながら一つの曲を奏でる喜びなどがあげられる。

その他にも指導者の声や立ち居振る舞いなどを通して、楽譜からは学べない、音楽の世界を感じることができる。

リモートでのレッスンでは、

- ①移動距離や時間の短縮
 - ②どのような場所でも行える
 - ③グルーブレッスンの場合、指導者が個別でレッスンをしながら、画面を通してほかの学生が練習している様子も確認することができる
- など、対面にはない広い視野と空間を感じることのできる環境が与えられる。

ピアノ上級・中級クラスでは、多くの学生がリモートよりも対面レッスンの方が細やかな音色や音の広がりを学び楽しむことができたと感じたのではないと思われる。

ピアノ初心者クラスの学生には、ピアノ経験者のように豊かな音楽性を求める前に、曲の基礎的な音の並び、リズムを学ぶことが主なレッ

スンとなる。そのため、できるだけ覚えやすい短いフレーズを繋げていくことで一つの曲を完成させていく指導が求められる。(資料1)

画像を通して音楽を学ぶことは、対面のときよりも、さらに集中してみたり聞いたりすることが必要となってくる。

指導者が短いフレーズを学生に弾いて聞かせ、それを学生に模倣させながら弾かせることは、学生の聴く力と弾く力の両方が大きく養われたように感じた。

又、グルーブレッスン等では、移動時間を短縮できる利点を活かし、アクティブラーニングを取り入れることができた。グルーブレッスンでは授業の中で入れ替わり立ち替わり個別でレッスンを回していくわけだが、今学んだことをほかの学生がレッスンを受けている間に、すぐに復習しテクニックを磨くことができる。再び自分のレッスンが回ってきたら、練習した成果を指導者と振り返り一緒に成果を喜び、確かめることができた。

譜読みが完成すると、練習することがより楽しくなり、練習する意欲につながったように感じた。

リモートレッスンの課題としては、まず、リモートでは実際に弾いた時の音と聞こえてくる音に時間差があるため、対面のときのように、指導者と学生と一緒に演奏しながら曲想を感じたり伝えたりすることが困難である。

そして、音の間違えなどにおいて、指導者のソルフェージュ力の高さが要求される。

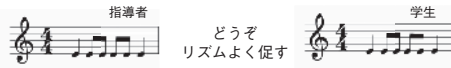
また、指使いなどは、学生のカメラの向きによっ

資料1 (初心者への指導例)

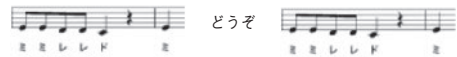
大きな栗の木の下で



1. リズム打ち (右手ホ) (左手い) を使用
 - a. 一小節ずつリズム打ち



- b. 最後まで続けてリズム打ち
 - c. リズム打ちをしながら階名 (ドレミ) をつけて歌う
2. 弾いてみる
 - a. 一小節ずつドレミで歌いながら弾く
 - b. 一小節と次の小節の1拍目までドレミで歌いながら弾く



- c. ドレミをうたいながら最後まで弾いてみる

※小節の1拍目をしっかり覚えることで次のフレーズをなめらかに進めことができる。

※両手で弾くときも2-bの練習をしてから、全体を通して弾くと、比較的短時間で両手で弾けるようになった。

※伝わらない言葉は、A4サイズ用紙にマジックペンを大きく文字を書き、活字で伝えると効果があった。

※音の並びが覚えづらく、なめらかに弾くことが難しい学生には、各音を2連打、3連打で弾く練習に効果がみられた。単純な練習なので楽しく取り組むことができた。



ては、指導者がきちんと把握できず、指使いや指をくぐらせるなど細かい指導が難しい、などがあげられる。

今後世界がどのような状況になろうとも、学生に確かな音楽教育をつけることができるようになるために、更に工夫や努力を重ねていく必要があると考えられた。

〈引用ページ〉

<https://www.nintendo.co.jp/nom/0807/bbdx1/index.html>